



## 特集 ペリーの記念碑

小森 秀治

### —幻と消えた横浜でのペリー像建立、すでに原型はできていた—

今回の特集は「横浜郷土研究会の50年 一年誌と文集—」(2009. 11. 28 発行)に掲載されていた小森秀治氏(故人)の論稿を転載させていただきました。分かりやすくするための変更として、多くの画像・見出し・引用文・注などは編集者によって加えられています。

これまでささやかに、国内より安い海外旅行をしてきたが、近年は東南アジアが多くなった。その理由の一つはペリーである。ペリーが浦賀あるいは横浜に上陸したことは、日本史の転換点の一つになったと言えると思うが、この出来事への関心から、ペリーの艦隊がアメリカのノーフォークを出航し、大西洋、インド洋を経て東南アジアへ、そして日本に来るまでの寄港地を見てみたいという思いがあった。そこで行った順序は違うが、ペリーが通過し訪れたマラッカ・シンガポール・香港・上海を見てきた。そして今回、沖縄へ行くことができた。

### 沖縄のペリーの記念碑 —「日本」の語はどこにもない—



画像左

[沖縄県那覇市にある記念碑 \(表3\)](#)

画像右

碑の裏、英文側。  
ここが外国人墓地にあることがわかる。

（正面碑文）  
 一八五三年六月六日  
 ペルリ提督  
 上陸之地

（台石 正面）  
 琉球人の繁  
 栄を祈り  
 且つ琉球人  
 とアメリカ  
 人が常に  
 友人たらん  
 ことを望む  
 一八五三年六月六日  
 大美御殿における  
 招宴席上のペルリ  
 提督挨拶

（台石 左面）  
 ペルリ提督  
 記念碑委員会  
 高等辨務官府  
 那覇市  
 治復興期成會  
 那覇市 米陸軍輸送部隊  
 親善委員会  
 在琉米海軍  
 在琉米國在郷軍人會  
 一九六四年七月一七日建立

ペリーが訪れた頃の沖縄は琉球王国だが、鹿児島藩の支配下でありながら、中国とも交流していたという複雑な立場にあった。しかし現在の国内で、最初にペリーが訪れたのは沖縄の那覇ということになる。

那覇の泊港は那覇港のすぐ隣

で北にある。その北岸に外人墓地があるのだが、その中で海側の、門から入って真正面にペリーの記念碑が建っている（碑の裏面は英文）。これを見るのが旅行の目的の一つだったので、カメラ片手に“非公式”に入場した。その碑文を全て紹介したいが、繁雑になるので日本文だけにする。

この碑は沖縄の本土復帰前に建てられたためか、「日本」の語はなく、在沖でなく在琉であり、米軍関係機関の名が建立団体の中に並ぶ。建立の1964年はペルリ（オランダ語風の発音）提督上陸か111年目に当たる。本土復帰は8年後の1972年5月である。この記念碑はどういう状況の中で、どのような意図で建てられたのであろうか。

その探究は別にすると、最近、当会（横浜郷土研究会）でペリーの像を横浜に建ててはどうかという話が出た。そこでペリーの記念碑は国内でどこにあるのか整理してみた。それが一番下の表（建立順、a・b・cは参考）になるのだが、まだ他にもあるかも知れないので、ご教示いただければ幸いです。

その探究は別にすると、最近、当会（横浜郷土研究会）でペリーの像を横浜に建ててはどうかという話が出た。そこでペリーの記念碑は国内でどこにあるのか整理してみた。それが一番下の表（建立順、a・b・cは参考）になるのだが、まだ他にもあるかも知れないので、ご教示いただければ幸いです。

### 生まれ故郷にある荘大なペリー像

まず最初に建てられたのはペリーの生地アメリカニューポートで、没後10年目に、ペリーの娘カロラインと夫のベルモント氏により建立された（表a）。



ペリーの生誕地、ニューポート市にある銅像。高さ約5メートル(表a)



←  
 ペリー提督像の台座レリーフ：日本人が筆を持って「日米和親条約」に調印するシーン。ペリー提督の足許奥に日本への贈り物の機関車が描かれている。  
 （「ペリー提督の機密報告書 今津浩一著、2007年10月18日発行」より

転載。撮影は今津氏・現、横浜黒船研究会会長）



編集者：このペリー像の下の台座の別の面にはペリーに深々とお辞儀をしている武士の姿、後方には垂れ幕内にいる袴を付けた武士（上級？）たち、日米の取り巻きの人々が描かれているものもある。著作権があるので掲載できないが、Commodore Matthew Perry Newport Rhode Island で検索すると見られる。下記コラム欄に米山梅吉氏による説明がある。

## 日本で最初、久里浜の碑 —伊藤博文が揮毫—



**ペリー上陸記念碑（表1）** 1901年（明治34年）7月14日、ペリー上陸と同じ日に除幕式がおこなわれた。碑文の「北米合衆国水師提督伯理上陸記念碑」は、初代内閣総理大臣 伊藤博文の筆によるもの。太平洋戦争以降、日米が敵対関係となり、1945年（昭和20年）2月に碑は引き倒された。終戦後、粉碎されず残っていた碑は同年11月に復元された。（久里浜観光協会公式サイトより）

そして日本で最初なのが、よく知られている久里浜の碑

（表1）となる。この碑については戦争末期に引き倒し、敗戦で米軍上陸となって、慌てて元通りにしたという、考えさせられるエピソードが残るが、この引き倒しの現場にいたのが川柳人の故関水華氏で、氏は「横浜文芸懇話会会報 66号」（編集者注：「ペリー上陸記念碑と浮世絵丹波コレクション」という題名で、

1992.2.8発行の66号に掲載）に当時のことを書いている。下記に全文掲載）

### 米山梅吉著『開国先登提督彼理』

1896年博文館発行の本書は、日本で出版されたペリー伝の嚆矢である。米山は三井銀行取締役、三井信託銀行社長を歴任した昭和戦前期の財界人で、また『幕末西洋文化と沼津兵学校』の著者として馴染み深い。本書は、米国留学後ジャーナリストを志した彼の第一作で、内容はグリフィスのペリー伝（1887年刊）に拠る。文中「米国ニューポートの公園に於ける彼理の銅像」を掲げて、像は二六年前に女婿ベルモンドが建立し、高さ約五メートル、台座周りには米墨戦争、久里浜での国書授受、横浜での条約談判の様子などペリーの事績を描いた彫刻があると紹介した。そして、「著者心私かに横浜の埠頭に彼理の巨像が建立せらるるあるの日を待ち望む」と述べて、日本でのペリー像建設を提唱した最初の本となったのである。

「開港のひろば 55号」（横浜開港資料館 平成9年2月7日発行）横浜にペリー銅像を！！—未完の銅像建設計画—（佐藤孝氏の報告）より抜粋

## ペリー上陸記念碑と浮世絵丹波コレクション 関 水華

平成3年10月17日付、神奈川新聞に「新聞週間によせて」上「圧力で戦争協力紙へ、ペリー碑撤去騒ぎも」（山室 清）の文中「地元の翼賛壮年団員が、この碑にワイヤを掛け、威勢よく引き倒してしまふ云々」とあるが、その中心人物は翼賛壮年団長佐野氏であった。

実はこの話は、昭和63年度・冬期久里浜公民館講座「川柳入門」1月30日から3月20日まで、毎週月曜日に出講した折りに、たまたま久里浜のペリー記念碑に触れたさい地元の医院の佐野氏の話をしたところ。次週、受講生の中から、現在も佐野医院があり、健在だと言うことであったが、ご当人か、ご子息か 深く穿鑿しなかった。

ペリー上陸記念碑が引き倒された時の記念写真には、戦闘帽国民服の藤原知事をはじめ、地元の佐野翼賛会会長もおり、私も戦闘帽をかぶっていた。

それから半年余、沖縄上陸米軍部隊が進駐してくることになるのだが、ペリー上陸記念碑は夜陰に乗じて関係者に依り元の姿に修復されていた。

終戦間際になって、県庁（本庁舎）各階の窓から中庭へ多くの関係書類が投下されて焼却された。ペリー記念碑保存会の経過書類も、引き倒されたさいの前記の写真もその中にあった。当時の各書類の焼却の煙は、二日間？も天空高く舞い上がったと言われているが、この現状も逸早く米軍飛行機に依り撮

影されていたということである。

同じ神奈川新聞 11 月 3 日（日曜日）のかながわグラフ「日本の美流麗に、繊細に一県立博物館で浮世絵特別展の 1 ページ特集に、名勝八景・金沢帰帆（歌川豊国作）、箱根七湯名所・きが（鳥居清長作）、富嶽三十六景・神奈川冲浪裏（葛飾北斎作）、同富嶽三十六景・東海羞・程ヶ谷（葛飾北斎作）外数点が、カラーで紹介されたが、**県立博物館が誇る浮世絵七千点、その中心は横浜の貿易商・丹波恒夫氏が集めた世界有数の丹波コレクションである**とも紹介しているが、この丹波コレクションの浮世絵にも因縁浅からざるものがある。

と言うのは、戦時下空襲対策の一つとして、**県下の文化財等を津久井郡串川村の当時村長だった平本家の倉庫へ疎開したのである。その中に、特別の計らいで、この丹波コレクションもあった。**若かった私は、寒風の中、トラックの荷台に乗って、文部省（現在は文化庁）の技官と共にお米持参で、串川村の「かどや」なる旅館に宿泊しながら疎開の重要文化財などを搬入したのである。

丹波家はたしか若葉町だったと思ったが、空襲で全焼してしまった。**この疎開がなければ、丹波コレクションは存在しないことになるので**思い出が一層深い。

（出典：「横浜文芸懇話会 66 号」（1992. 2. 8 発行））

## あまり知られていない東京の芝公園にあるペリー像

表 b は後にして、戦後の表 2 はあまり知られていない。開国 100 年でニューポート市から東京都に贈られた（1953 年）という。近年、芝公園整備の時、芝大門近くの公園内に設置されたものか。このペリーの首像は青年の風貌で、見慣れた老齢のペリーからは想像し難い。



誌

嘉永六年七月（1853 年）および  
安政元年二月（1854 年）に日本の開  
港のため米国代表として江戸湾を訪れた  
ペリリ提督の出生地でありまた当時日本  
訪問の出港地である米国ロードアイラン  
ド州ニューポート市から親善のしるしに  
東京都に贈られたものである  
米国人フェリックス・ド・ウエルドン作  
東京都

（左）芝公園内の「ペリリ提督の像」(表 2)

（右）裏側台座の碑文

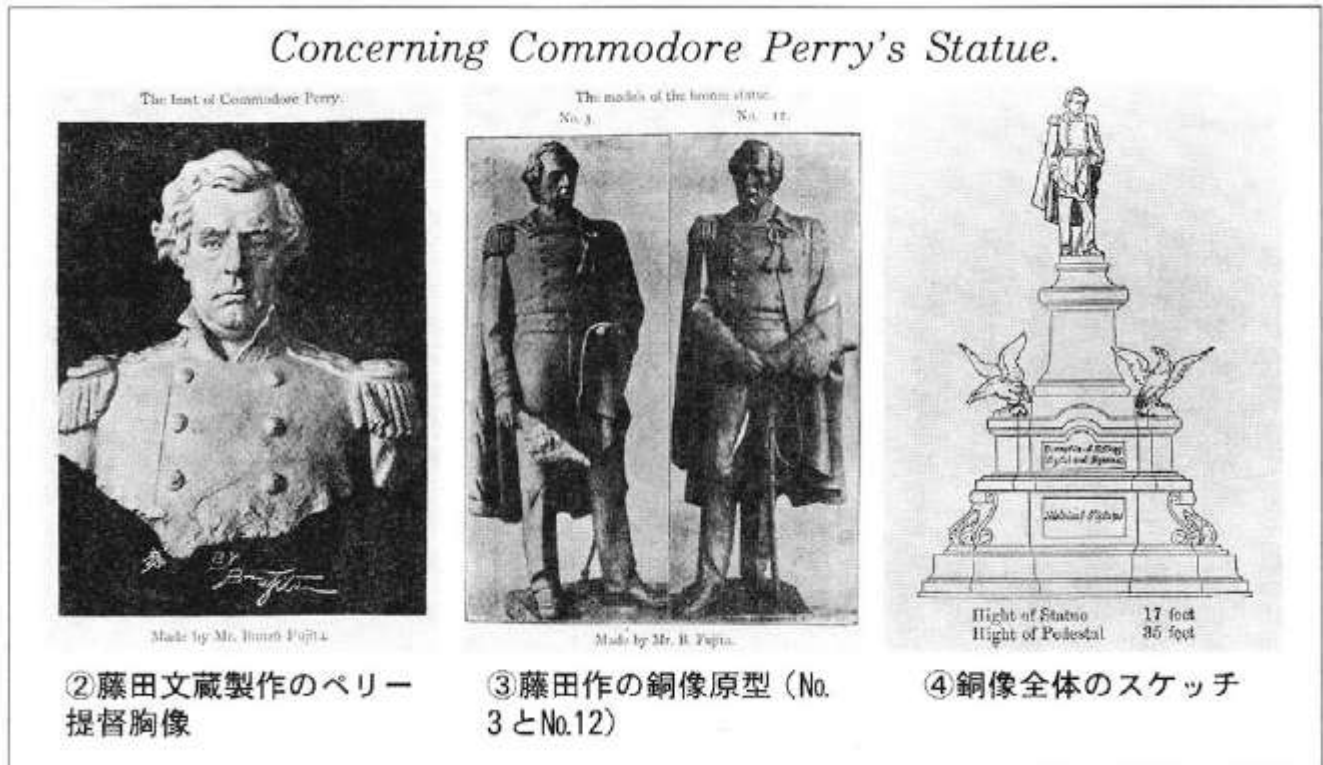
## 碑文表記「上陸」が「来航」へ

この表（最後尾に掲載）で気が付くのは、「ペリリ」の表記が戦後の昭和 39 年に建立された表 3 まで使われていること。またペリーの「上陸」が「来航」へと変わってきていること。表 4 の下田市のように艦隊来航として、個人崇拜（？）を避けたと思われる表記もあること。また、首像、胸像、立像、碑文と、形態も様々なことなどが分かる。

## 横浜開港五十周年 ペリー像建設への動き

### —井伊大老像を手がけた藤田文蔵による模型・塑像づくり—

ところで表bだが、これは幻の計画で実現しなかったもの。しかし横浜に関係したのであえて加えてみた。その経緯については佐藤孝氏が「開港のひろば」55号に詳しく調査報告している。



「開港のひろば 55号」4pより転載（各画像下の説明文内の数字は本文とは関係ありません）1908年10月米国大西洋艦隊歓迎会の時、会場中央に藤田製作のペリー半身塑像が置かれたという。これは、そのさい配布された英文パンフレットに掲載されたものという。

これによれば、1896年発行の『開国先登 提督彼理』で、著者の米山梅吉がペリー像建設を提唱したのがわが国では最初のように、1900年、ペリー艦隊の元乗組員が来日したのがきっかけとなり、翌年、久里浜に建碑された。横浜では1909年の開港五十周年の前後に動きがあり、井伊大老像を手がけた彫刻家の藤田文蔵が胸像や立像の模型を作り（表b）、銅像建立の英文趣意書などを配布し運動したが実現に至らなかった。

その理由としては、ペリーを日本開国の恩人と見ず、むしろ、なぜ米国官吏の銅像を建てようとするのか、と当時の政府首脳の中でも疑問視する者がいたこと。また、日米友好を深める目的もあったが、当時の日米関係は、日本移民排斥や排日運動が起きるなど悪い時期でもあった。このためついに戦前・戦中には実現しなかった。

### 横浜には開港広場に丸い石碑があるが…

戦後になって日米関係は、占領者と被占領者の関係にもかかわらず、米国大好きな国民が多くなり、特に横浜では開国100周年が1954年に当たるため、関連行事が企画された。その中に記念碑建立があり、一つは大老井伊直弼の銅像。これは開港五十周年で掃部山に建てられたが、戦時中に金属回収で供出、戦後この機会に再建された。もう一つは表のcである。これは現在、開港広場にあるが、石製の地球儀に、当時の平沼亮三市長の筆跡で「日米和親條約調印の地」と書かれてあるだけで、ほかに建立の年月日や建立者の名は





開港広場にある「日米和親条約調印の地」と記された石碑(表C)

彫られていない。脇の説明板には「日米和親条約締結の地」と、調印の言葉が締結に変わっている。

ちなみに表のデータはこの時の新聞等からで、記事は同日除幕した大老像が主、調印の碑が従の扱いになっている。これは表の他の碑と違って「ペリー」も「上陸」も「来航」の文字もなく、この点、ペリーの記念碑とは言い難いものがある。ではなぜこの碑名にしたのか。決めた経緯は調べていないが、類推すれば、開港五十周年の時のごたごたが伝わっていて、ペリーの名を出さないのが賢明と判断したのではないか。それに、文字通り開国の条約を最初に調印した場所というのは、単に上陸した、国書を受領した、などと違う重みがあると考えたのではないだろうか。横浜は他とちょっと違っていたということか。しかしこのような特異な記念碑だが、市民や観光客の注目度はどうであろう。これまで制作者や建立者のことなど、詳しく書かれたものが見当たらず、広報も弱く、親しみが持てず

にきたような気がする。碑としては小振りが目立ち難いが、これからはもう少し関心を持つようにしたいと思う。

## 他市にあって、横浜にペリー像がない確かな理由は？

ペリーについてだが、確かに現代でも反発を抱いている人があるようだ。平成16(2004)年4月17日、横浜市開港記念会館で、神奈川新聞や新聞博物館、横浜黒船研究会などの主催により、「ペリー提督横浜上陸・日米交流150年記念行事『ペリー来航と横浜世界史デビュー』」というシンポジウムが催されたが、その基調講演をした評論家の松本健一氏は、日本人が「開国の恩人」として阿部正弘の像を建てるのではなく、ペリーの像を建てるのは、どういうことなのか、と述べており、前年にも産経新聞に、「開国」の恩人はペリーではない、と書き、内外に波紋を広げた。

このように歴史上の、特に他国の人物の評価は難しく、様々な見方ができる。現在、2年後の開港150周年に向かって横浜各地で催物が企画され進行しているようだが、こうして関連の記念碑を比較してみると、各地の事情や建立のいきさつの違いなど、それぞれの場所と時代を反映しており、日本の近代史や日米関係を考える上で、材料の一つになるのではないだろうか。

(了)

(この文面により、この論稿が書かれたのは開港150年(2009年)の2年前ということなので、2007年となる)

下田のペリー像(表4)



ペリー提督の胸像と、アメリカ海軍から寄贈された錨が飾られている下田の「ペリー上陸記念碑」。この記念碑は下田港を臨む「ペリー上陸記念公園」にある。



下田のペリー像 顔部分

久里浜のペリー胸像（表5）



「ペリー提督」胸像。久里浜のペリー公園にあるペリー記念館の中にある。ネット上に説明が殆どなく、注目度は低そう。

函館のペリー像（表7）



1854（安政元）年、函館が開港する契機となる米国のペリー提督率いる黒船 5 隻が函館に来航。その 150 周年を記念し、2002 年、基坂沿いの元町公園下にペリーの立像が設置された。元町公園の下に位置する旧市立函館病院跡に建つペリー提督来航記念碑。黒船来航 150 周年となる 2004（平成 16）年に先駆け、地元団体の手によって、2002（平成 14）年 5 月 17 日のペリー来航記念日に合わせて建立されました。開港後に設けられたアメリカ領事館に近い由緒ある場所としてこの地が選ばれ、ペリー像は函館港を見渡すかのように悠然と建っています。（函館市公式観光情報より）

小笠原のペリー提督来航記念碑（表6）



手前の説明文： 西暦 1853 年 6 月 14 日、米国東インド艦隊司令長官・ペリー提督はサスケハナ号に搭乗し、サラトガ号を従え父島二見港に入港した。

来航の主目的は、小笠原を太平洋横断航路の中継地とすることで、そのために必要な用地を購入したほか、「ピール島（父島）植民地政府」を樹立した。これは、提督が日本開港を求めて浦賀沖に姿を現わす 1 月カ前のことである。（1 カ月の誤りか）提督は、小笠原諸島の第一発見者は日本人であると指摘しており、このことが後に小笠原諸島が日本領土として認められる要因になった。

本記念碑は、ペリー提督の来航と提督の生誕地米国ロードアイランド州ニューポート市との友好を記念して建立したものである。

平成八年五月 小笠原村

（1996 年）

ニューポート市、那覇市、小笠原村、横須賀市、下田市、函館市、各市の章



関係各市の章、横浜は無関係？

| ペリー記念碑一覧 (建立順、a・b・cは参考) |                       |                               |                             |                                       |             |                      |
|-------------------------|-----------------------|-------------------------------|-----------------------------|---------------------------------------|-------------|----------------------|
|                         | 建立時期                  | 所在地                           | 碑名                          | 設立者                                   | 形態          | 備考                   |
| a                       | 1868<br>(明元)          | アメリカ・ロード<br>アイランド州・<br>ニューポート | —————                       | ベルモント夫妻                               | 立像          | ペリー没後10年             |
| 1                       | 1901.7.14<br>(明34)    | 横須賀市久里浜<br>ペリー公園              | 北米合衆国水師提督伯理<br>上陸記念碑(伊藤博文筆) | 米友協会                                  | 碑文          | ペリー艦隊元乗組<br>員来日きっかけ  |
| b                       | 1908-1910<br>(明41-43) | 横浜市(中区)<br>〔横浜公園〕             | —————                       | —————                                 | 〔立像・<br>胸像〕 | 設立計画中止<br>開港50周年     |
| 2                       | 1953.7.20<br>(昭28)制作  | 東京都港区<br>芝公園                  | ペリー提督の像                     | 東京都                                   | 首像          | ニューポート市<br>から贈呈      |
| c                       | 1954.6.2<br>(昭29)     | 横浜市中区<br>開港広場                 | 日米和親条約調印の地<br>(平沼亮三筆)       | 神奈川県、横浜市、<br>横浜商工会議所                  | 碑文          | 開国100周年記念            |
| 3                       | 1964.7.17<br>(昭39)    | 那覇市泊<br>外人墓地                  | ペリー提督上陸之地                   | ペリー提督記念碑<br>委員会(6者)                   | 碑文          | 本土復帰前                |
| 4                       | 1980.6.1<br>(昭55)     | 下田市<br>ペリー上陸記念公<br>園          | ペリー艦隊来航記念碑                  | —————                                 | 胸像          | —————                |
| 5                       | 1987.5<br>(昭62)       | 横須賀市久里浜<br>ペリー公園・記念<br>館      | ペリー提督                       | 横須賀市                                  | 胸像          | 市制80周年               |
| 6                       | 1996.5<br>(平8)        | 東京都小笠原村<br>父島、大神山公<br>園       | ペリー提督来航記念碑                  | ニューポート市、那覇<br>市、小笠原村、横須賀<br>市、下田市、函館市 | 碑文          | 顔と碑文はめ込み<br>シンポジウム開催 |
| 7                       | 2002.5.17<br>(平14)    | 函館市元町                         | ペリー提督来航記念碑                  | ペリー提督来航記念碑<br>建立協議会                   | 立像          | 市制80周年               |

編集者より： この小森秀治氏の論稿に出会わなければ、横浜にペリーに関する像や記念碑がなく、他所には実はこれほど多くあることに気がつくこともなかっただろう。そして、歴史を振り返れば、ペリー像を横浜に建てようという動きが強力に進められ、その原型が掃部山に立っている井伊直弼像の制作者（藤田文蔵氏）によって、すでにつくられていたことも全く知らなかった。

各所にいるペリー提督の顔はそれぞれで、似ても似つかないものもある。そんななかで、藤田氏のペリー像がもし実現していたならば、きっと本物のペリー提督に一番似ていたに違いないと思えるのだ。せっかくなされた塑像たちは行方知れずになってしまったという。詳しくは「開港のひろば」55号「横浜にペリー銅像を!!!」—未完の銅像建設計画—をお読みください。藤田氏の無念さも伝わってきます。

不思議なことは、小笠原の「ペリー提督来航記念碑」の手前にある石に掘られた説明文の最後に、「本記念碑は、ペリー提督の来航と提督の生誕地米国ロードアイランド州ニューポート市との友好を記念して建立したものである。」としめくられており、ニューポート市、那覇市、小笠原村、横須賀市、下田市、函館市、各市の名前と市章が刻まれているが、日米和親条約締結の地「横浜市」がないことだった。

藤田氏の銅像は山下公園に設置する予定だった（「開港のひろば」55号の最後のほうにそう書かれていた）とか、当時の時代背景や経緯がいろいろあっただろうが、「ペリー提督像」が横浜港を眺めて立っている姿を是非とも見たかった。